

新学年になり1か月が過ぎました。ゴールデンウィークも終わり、張りつめていた緊張の糸が切れて、疲れが出ていきやすいこの時期。気温の寒暖差も大きく、体調を整えにくいことも重なっています。心と体は密接に関係していますので、子どもたちのちょっとした不調を見逃さず、上手にリフレッシュしてこの時期を乗りきってほしいと思います。

「こんなこともできないの？」

「好きなことには集中できるのに…」

これって、子どもの怠けややる気のせい？



上記の言葉を保護者の方からよく耳にします。確かに、子どもの怠けややる気がないせいで、その結果、学習成績が上がらないこともあるでしょう。しかし、そうではなく神経発達症が影響していることも少なくはありません。

神経発達症群には、知的発達症、自閉スペクトラム症 (ASD)、注意欠如・多動症 (ADHD)、限局性学習症 (SLD) 等が含まれます。そのうち、後の3つを「発達障がい」ということが多いです。それぞれの子どもたちには、特性がありますが、**特性＝障がいとは考えません**。特性があっても、環境（教育・福祉・医療・周囲を取り巻く人々の理解など）をととのえることで、その特性や得意なところを生かして、自己効力感、自己肯定感を高め、特性が障がいになることを予防することができます。**必要なのは、診断名ではなく、理解と支援です。**

つまり、子どもが怠けているわけでも、わざと困ることをやっているわけでもないということです。学習面や生活・行動面での困り感に気づき、本人のしんどさを理解してあげて、その子どもにあった手立てをきちんとして、環境を整えていくことが大切なのです。「なんて、こんなことも分らないの。」「何度言ったらわかるの。」と叱ったところで、子どもを傷つけるだけで良くなることはありません。中には、「弟はできるのに…」と兄弟で比較されたり、「お前は、あほや。」と人格まで否定されるようなことを言われたりすると、自尊感情が育たないばかりか、二次的な問題に発展してしまう可能性があります。

そこで、周りにいる大人が理解し支援するためにも、まずは知ることが大事ですので、主に3つの発達障がいについてお知らせしていきたいと思います。

限局性学習症 (SLD) とは



限局性学習症の子どもたちは、全般的な知的発達に遅れはなく、視覚・聴覚などの抹消感覚器の障がいもなく、「聞く・話す・読む・書く・計算する・推論する」の特定の能力の習得と使用に困難を示します。出来ることと出来ないことのばらつきが大きいことが多いです。知的能力に遅れがなく、出来ることもたくさんあるために、周囲の人からは努力が足りないと思わ

れてしまいやすいのです。本人としては、「頑張っているのに、わからない、できない。」と悩み、努力不足だと注意を受けることが度重なると、「どうせ、やったってできへんし。」と、やる気を失って、学校に行きたがらなくなったり、うつ病や不安障害など二次的な問題を抱えてしまったりすることもあります。

幼児期の特徴



- 言葉の発達に遅れがある。
- 絵本に興味を示さない。または、絵は見ているが、文字に関心をもたない。
- 就学前に、発音が明瞭にならない。(「あし」を「あち」、「たいこ」を「たいと」と発音する等)
- 集団の中で、聞き漏らしが多かったり、指示が理解できなかつたりする。

小学校での特徴

- 小学校入学後、ひらがなをなかなか覚えられず、書けない。
- カタカナや漢字もなかなか覚えられない。
- 形の似た文字を間違える。(さくら→ちくら、 はし→ほし))
- 板書に時間がかかる。板書を取ることを嫌がる。形を正確に覚えられないために、手元を見ないで写している場合もある。
- 本読みの宿題を嫌がる。
- 初めての文章を読むのは、たどたどしい。教科書の音読は、耳で聞いて覚えて読む。
- 単語や行を飛ばして読んだり、文末を変えて読んだりする。
- 文を書くと、誤字や脱字が多く、何を書いているか分かりにくい。
- 鏡文字(左右が逆さまな文字)を書く。
- 言葉の理解が難しい。
- 言いたいことをうまく話せない。考えをまとめて、順序だてて話せない。
- 簡単な計算でも、指を使っている。
- 数の概念が理解できない。
- 図形や表、グラフの理解や文章問題を解くことが難しい。

どっちが右でどっちが左？



上記のようなことが現れるのには、さまざまな要因が考えられます。そのため、困難さの要因がどこからきているか、丁寧なアセスメントが必要となります。上記の項目に複数当てはまり、気になる場合にはご相談ください。ご家庭では、できないことを注意するよりも、できたという自信をつけることが大切ですので、まずは、頑張っていることや、今できていることを褒めてあげてください。

次号は、注意欠如・多動症 (ADHD) についてお知らせいたします。